

電子資源 (Electronic Resources) の情報 を NACSIS で記録するために

東京大学 柳原恵子

始めに

この問題を勉強しようとしたきっかけは日々の整理業務の中で今まで扱ったことのない媒体 (=いわゆる Computer files) による資料が増えたこと、いざ目録を作ろうとしても目録規則が現実に追いついていないので、まずどこを見て・何を目録の必要条件とし・何を省いても差し支えないのか、皆目見当がつかず苦慮した経験が少なからずあったこと、に起因する。私の所属する図書館では NC に登録してはじめて自館の OPAC に反映するシステムをとっているために、NC 側の環境が整わないことには手も足も出ないという状況がある。ために NC に対して現場がどういったサポートを期待しているのか、という視点でのレポートになるであろう。私の担当が洋図書目録であったため電子ジャーナルやリモートアクセス型の資料についてはふれない予定であったが、勉強を進めていくうちに不可分のものとして扱わざるを得なくなってしまった。また、本稿では著作権や ILL は別の次元の問題なのでふれない。

実際に NC に資料の登録作業を行う時に必要なものは

登録する資料

書き込むファイル

コーディング・マニュアル類 であろう。

電子資料 (= Electronic resources, 以下 E 資料) を NC の現システムに登録するとして、上記3点について考察してみると、それぞれ

登録資料は「所蔵」概念についての定義を明確に、

書き込むファイルはフィールドの見直し、ひいてはファイルの構成の見直し、

コーディング・マニュアル類は現在実際に回っている資料媒体を記述可能にするための修正作業、

を行う必要がある。

「所蔵」概念について

従来の形ある資料であれば所有関係は明確であるから、持っているものを登録する、としておけば事足りたものだが、リモートアクセス型の資料が出現してからは「所有する」ということの定義をし直す必要が生じた。当面は「出版社、プロバイダーなどと何らかの契約を結び専断的にアクセスできる資格を有する事」を「所蔵する」と同義に扱う。

無料でアクセス可能なインターネット資料の扱いについては後述する。

書き込むべきファイルについては、フィールドの追加等は必要に応じて当然行われるべきである。当面注記で救済する、という方法も当然でてくる。しかしこの際新しいファイルの創設という方法も考慮の余地があるのではないかと。詳しくは後述する。

コーディングマニュアルの整備は とも関連するので、簡単にモデルを提示できないが、AACR2 Rev. 88, Chap. 9, US-MARC Field 856 等の邦訳の公刊は急務である。NC のコーディング・マニュアル作成時の留意事項については後述する。

NC の共同目録に登録する資料の範囲

前項の所蔵の概念に該当するものを登録する。Internet Resources の目録の作成については、図書館の仕事ではない、とする意見もあるが、少なくとも自分の財産については一元的に把握できないと具合が悪いので登録を行う。Internet Resources の図書館での目録作成の是非は後でふれる。

とは言っても実際には(少なくとも NACSIS-CAT の世界においては), ER の登録は遅滞とした歩みでなかなか目録の集積がなされなていない。ではなぜ(多分みんな大事なことであることに異論はないと思われるのだが), 進まないのだろうか?

作業の進まない原因として

1. 入力 (= 目録) 規則の未整備
2. 入力用ファイルの未整備
3. 参照 MARC の未整備

などが考えられる。

<ER の入力規則について>

NC のコーディングマニュアルでは格別の規定はまだなされていない。従ってこれらの資料を整理するためには、日本語・中国語・朝鮮語によるものは NCR に、それ以外のものは AACR2 に沿った目録を作成する必要がある。

1)NCR の現状

“コンピュータファイルについては、1987 年に刊行した『日本目録規則 1987 年版』において「第 9 章機械可データファイル」を設け、データファイル、プログラムファイル等の記述について規定した。また、1994 年に刊行の『日本目録規則 1987 年版改訂版』では、第 9 章の条文について若干の見直しを行っている。

ところで、図書館資料として扱うべき情報媒体としてのコンピュータファイルは、多様化の傾向が近年著しく、また、インターネット等、通信技術の発達に伴って、図書館の所蔵資料以外の各種情報ファイルにリモートアクセスすることが可能となり、これらの情報資源について目録を作成する必要性が生じている。

このような状況に対応するため、今回第 9 章の内容を見直すこととした。...(中略)...

2. 改定のポイント

リモートアクセスという概念の導入 (解説略)

内部情報源の採用 (解説略)

システム要件の充実 (解説略)

アクセス方法の注記 (解説略)

ファイルの更新に関する情報 (解説略) (後略)”『日本目録規則 1987 年版改訂版』第 9 章コンピュータファイルの改定について(案)より“

という状況にある。

2)AACR2 等の現状

1978 年初の MARC 用目録規則 AACR2 公刊(邦訳は 1982 年刊行), ER については Chap.9: Machine readable file で扱っている。

1988年 AACR2 '88 Revision 刊行（第9章コンピュータファイルの邦訳は未刊行）。ERについては同じく Chap.9 で扱っているが Computer file と呼び方が変わった。主情報源としてタイトル・スクリーン（内部情報源）を採用しており、これにより実体をもたないリモートアクセス型の資料の目録化が可能となった。

1993年 AACR2 '93 Amendments が刊行された。第9章は例の変更程度。

1993年 USMARC Field 856 の新設など一連の「オンライン情報資源」の書誌フォーマットに関する改訂。フィールド 856 の導入により電子的ロケーションとアクセス条件が、フィールド 008 / 26 によりコンピュータファイルの種類の記述が可能になった。

1997年 ISBD(ER)の刊行。（参考1）

- ローカルアクセス・リモートアクセスという概念の導入。
 - （ファイル）内部情報を主情報源として採用。
 - ERの種類（タイプ）と大きさ(extent)を記述するエリアの設定。
 - タイトル情報源の注記記入の義務化。
 - 【ローカルアクセスの場合】システム要件（システムが動くための機械まわりの条件）・【リモートアクセスの場合】アクセス方法（mode）の注記の義務化。
- が採用されている。

<コーディング・マニュアルに求められるもの（留意点）>

- アクセス方法の差異概念の導入
- 主情報源の定義
- ファイル特性の記述の採否・書き込み場所
- ISBD(ER)の採用（NCR 新案では ISBD と異なったパンクチュエーションを用いている個所がある。）
- 単語の定義の明文化（新しい概念・発明品が多いのでカタログ間の合意のために）
- 和目と洋目との使用単語のすりあわせ(e.g.大きさの単位のセンチとインチ、インチと in. など)
- 対応する所蔵ファイルでは利用可能な期間（契約条項）、巻号等について書き込めるフィールドを設定すること。

<ER情報の登録ファイルについて>

実際に NACSIS-CAT に ER を登録する場合を考えてみよう。

現在の NC のファイルは図書と雑誌に別れている。すなわち NC に登録するためにはまずその資料を図書として扱うのか、雑誌として扱うのか決めなくては先に進めないしかけになっている。それでは ER は図書として扱うべきか、あるいは雑誌として扱うべきなのだろうか？

従来の流れの中では紙の形であれば図書として扱われるものは図書ファイルに、同様に雑誌として扱われるものは雑誌ファイルに登録するものとして議論が行われてきた。入れるべきファイルが二つしか用意されていないのだから、当然といえば当然の話なのだが。

現在の2ファイル体制が決定されたのはもう10年以上も昔の話である。ことコンピュータの環境に関してはこの10年の変化は我々の予測の域を遥かに超えたもの、といっても過言ではない。10年前のシステムをそのまま使いつづけることには無理も矛盾もおきてくる。また技術的にも経済的にも、昔はできなかったことが現在では簡単にできるということもある。

今後ともこのままの状態を維持していいのだろうか？

第3番目のファイル、すなわち ER のみを収録するデータベース・ファイルの創設を提案する。このファイルを仮に「ER ファイル」と名づけよう。

【ER ファイルを創設することのデメリット】

紙媒体で頒布されているものと同内容の ER が違うファイルに登録されることになる。

ファイルの創生に莫大な手間・暇・経費等を要する。

【ER ファイルを創設することのメリット】

資料媒体の形式から登録すべきファイルを決定できるので、ファイルの選択が容易である。また何人が目録を作成しようとも同じファイルを選択する結果となろう。

AACR2, NCR 等の規則を応用できるのでコーディング・マニュアルの制定が容易にできる。

書誌ユーティリティとしての LC-MARC、JP-MARC のデータを比較的少ない手直しで流用することが可能である。参考書誌ファイルの作成、各新規目録作成館の目録登録作業が容易になる。

AACR2 が目録規則の世界標準ともいえる存在であり、圧倒的量の優位から実質的に世界標準を形成している LC-MARC にそった形でデータを形成することは、NC データの世界標準化を意味する。すなわち広く世界の図書館が NC 作成のデータを容易に利用することが可能になる。

ER の利用体制に関しては環境が未整備で、実際的には従来の ILL の中に組込むことは現状では難しい。ファイルを別にするにより利用者にこの資料は ER であることを容易に認識させることが可能となる。また ER を別ファイルとしてデータの集積を図ることにより、ER の持つ様々な側面からの特性・問題点などが雑誌や図書のファイルに混在されるより顕在化しやすくなり、それぞれに対する対応も迅速におこなえる事が期待できる。

デメリット部分は 1) 同じ内容の資料が媒体によって別ファイルに格納される件は注記で十分救済可能であるし、ブラウジングの際の煩わしさは GMD コードの簡略表示画面への表示・GMD コードの一次検索対象化などで回避は可能である。(いずれにしても現ファイルのハードカバーとペーパーボックスの二重書誌の鬱陶しさの比ではあるまい。)

2) 新ファイル創設の為に諸経費については、現ファイル体制を維持した場合の参照ファイル変換の手間、各目録作成機関の担当者の負担、それによって予想される ER 自体の目録作成回避行動、そして将来においてやはり別ファイルを作るべきだという方針変換がなされた場合のファイル移行作業などを視野にいれて論じられなければならない。

以上より今後の ER の増加に書誌ユーティリティとしての NC が機能していくためには、ER ファイルの新設を提起するものである。ER ファイル内でのフィールドの持ち方は前述の理由により NCR 新案、ISBD(ER)等に沿ったものとする。

<参照 MARC の整備について>

新しい媒体の資料が入ると、さて LC ではどうなっているのかな？と参照ファイルを開いてみるのだがみつからず、結局自分で苦し紛れにレコードを作成した、という経験はどなたにもあることであろう。NC に参照レコードとして取り込まれている LC レコードのうち、現時点においては雑誌として認識されるものは 2000 件ほどを確認できたが、図書のカテゴリーに入

りそうなものは(付随資料としての CD-ROM 資料等を除いて)参照 MARC 中に確認できなかった。LC-MARC の一般資料種別“機械可読データファイル”(c)は一般的な図書資料と同様の基準で LC(E)とでもして参照ファイルに入れておくのが望ましい。ER ファイルでの目録作業時に動くものとする。(実際のところ LC がこうした資料についてどの程度の目録の蓄積を持っているのか、Web 上の所蔵目録からは確認できていないのだが。)

< 目録作成機関 >

ER は所有形態から非常にラフなレベルでは次の 3 種類に分類が可能と思われる。所有形態から目録作成機関は自ずから決まってくる。

1) パッケージ系の資料

2) リモートアクセス系の資料(出版者との何らかの契約により特権的にアクセスが許されているもの)

3) リモートアクセス系の資料(誰もがアクセス可能な資料)

(1)(2)の場合は「所有している」ものと判断できるので、「所蔵館」が目録を作成する。問題は(3)の場合で、資料を作った人、存在に気がついた人が目録する、所蔵がない以上目録しない、など様々に見解が分かれる所である。(3)のケースの目録について以下の段で、もう少し考えてみたい。

< 誰もがアクセス可能な Internet Resources (以下 IR) を目録するのは誰か? >

Electronic Resources は従来の Machine readable files (現在で言うところのパッケージ型ファイル)とともにインターネット資料(いわゆるリモートアクセス型の資料)のふたつに大別できる。NC においてはパッケージ型の資料は従来からその中身によって図書ないしは雑誌のファイルに登録されてきた。しかしながらリモートアクセス型のものの取り扱いについては、媒体の新しさから、この間懸案事項とされてきた。この度の『日本目録規則 1987 年版改訂版第 9 章新案』(以下「NCR 新案」)の骨子が公にされたのを受けて、ようやく日本においてもリモートアクセス型 ER に対する図書館資料としての目録作成の環境が整いはじめた。

IR に関しては、図書館でわざわざ目録を作らなくても代用できる(しかもよりハイ・レベルな)ツールが存在しているので、それをういれればよい、という説を唱える人がいる。しかし、私たち図書館員が代用できて便利だから、と IR の目録作業を図書館の仕事から手放してしまっていないのだろうか?

視点を変えるとこの問題は我々図書館(員)の作る目録と他の機関の作成する目録にどういった差異が生じるのか、を検証することにより答えを得ることができる。では図書館の他にどういった機関が作成するだろうか?

出版社

ボランティア(例えば大学など)

Information Retrieval を商売にしている機関 etc.

目録作成機関の母体が多岐にわたるということはそれらの目録がそれぞれの機関にとって使い勝手のいいものであることを意味する。ということは利用者はそれぞれの目録の特性を理解した上で使用することを強いられる、ともいえるわけだ。対して図書館の作成した目録は世界的レベルでの標準化がかなりの部分で実現している。すなわち日本の目録が判る人はアメリカの目録を理解するのにさほどのトレーニングを要さない。あるいは必要情報を自分のフロッピー

に落とすことを考えてみよう。標準化された目録機関の作成した目録であれば一つの方式でダウンロードが可能になる。(現在この分野は緒についたばかりで具体例をあげることはできないが、世界の図書館が“標準”という概念を捨てるとは到底思われない。)

別の観点で論ずるならば、これらの機関に比して図書館の作成した情報は、商売がかかわらない分、公平・信頼性が高いことを期待できる。

また、今後益々増加するであろう ER,IR の目録作業を放棄することは図書館の未来を自らの手で閉ざすことを意味する。なぜならそうした図書館にはもはや保存庫としての価値しか将来の人々は見出せず、利用者がごく限定されてしまう危険性を孕んでいるからである。私たち図書館に勤める者は自らの明るい未来を確保するためにもこの問題に真剣に対処することを迫られているといっても過言ではない。

【NACSIS による無料 IR 目録にのぞまれるもの】

Internet 上の無料の資料の目録は所蔵情報を持たない以上、現在までの共同目録とは一線を画すべきである。また所蔵という属性を持たないので従来の所蔵館による書誌の作成・登録というスキームも成立しない。

だから NC が無理をしてやることではない、という人も当然いるが、前にもふれた通り私は私たち図書館人が次世紀に生き延びるためにはこの分野を絶対手放してはならないと、信ずるものである。図書館の作る目録のメリットはすでに述べた。膨大なインターネット上の資料の一つ一つを従来の図書の手法で目録することは不可能である。当然機械の力をかりることになる。現在流通しているインターネット資源をそのまま用い、いろいろな基準で機械にかけて同じ母集合から似通った結果を期待した振るい別けの実験を行った所、実験結果に大きな差異が生じてしまったという。これは資源が様々な形式でつくられていることに起因すると分析された。そこで「ダブリン・コア」のようなメタ・データ要素の制定が必要となる。要は作り手に自身が何者であるのか語らせることにあるが、「ダブリン・コア」に NACSIS としての変更を加え、より利用者にとって有利な条件で参加組織間のデータの標準化を図る。幸い NC の背景には一定水準以上の内容が期待できる情報発信者としての「大学」が控えている。まずそれぞれの参加組織には母体の発信情報の形式チェックを義務付け、不備なものは組織内で改善させる。学内にある種のレフェリー制をしいて組織としての「お墨付き」を義務づけることができれば情報サイトとしての権威の確立に役立つかもしれない。また NC 自身も独自の基準(送り手よりも一段と厳しい基準といえようか)によって収録の是非を決めるべきであり、その基準は公開され必要に応じて手直しがなされなくてはならない。

現在多くの大学(図書館)のホームページ上で数々のリンクがはられ閲覧者はネット・サーフィンによりいろいろな情報を得ることができる。しかしどうしてこんな情報が???という経験は誰しもひとつふたつ持っているのではあるまいか。改めてニュートラルな機関(大学・図書館など)のホームページを眺めてみて、ページに載せる基準といったものを明らかにしているサイトの例を見出せずにいる(内部では何らかの基準は存在しているにしろ)。性善説に立脚したネット上の情報の取捨選択は見る人に委ねられているということなのだろうが、ネット上の情報のうち不可欠なものは必ずしも多くはない、という指摘もある以上利用者の利益の為には登載の選考基準は公にしておく必要があるものと考え。Web の評価基準では Southwest State University(参考2)の利用者教育で用いられている基準などが参考となるであろう。またアメリカでは公共図書館用に機械による Web 閲覧フィルターのようなものも

開発されている模様である（ポルノなどを自動排除するため）。こうした研究も参考になろう。

最後に

このレポートを作成するにあたって、ER を目録するための目録規則の変遷をざっと見直す機会を得た。そしてたかだか（？）目録規則ひとつといえども、近代日本の技術・文化は欧米の輸入・模倣以外の何物でもない、という悲しい事実を確認する結果となってしまった。

論議を尽くすこと、拙速を避けることの意義を否定するものでは勿論ないが時機を得ることが優先する場合もある。技術の進歩に法律・規則の類が追いつかないコンピュータまわりのことに関しては、早い者勝ちに近い状況もある。世界標準たること、すなわち他に先んじて前例を作ること（但しある程度の数を頼める妥当性を有した上で）が肝要である。

この間の簡単な調査でもはっきりわかったのは、アメリカの情報公開が想像以上に進んでいるということ、というよりは対する日本の状況があまりにも旧態前としているということ。NCR の新案にしても現段階では「図書館雑誌」の記事以外に公にされたものを寡聞にして見つけることができなかった。またこれに大きく影響を及ぼした US-MARC Field 856 etc. に関しても日本の目録機関のホームページで紹介などを現在までのところ見出せずにいる。（例えばここ NC においても、この問題については何度も検討されてきた経緯があるようだが、これらの論議内容についてはごく限られた人々しか知る手段を持たないのが現実である。）議論をするための材料すらオープンになっていないのでは、話が進まないのも当然かもしれない。

世界標準は一義的には（出来上がったものがあれば）参加した方が何かと便利なものである。しかし人様が作っておいて下さったものに参加するのではなく、自分で世界標準を作ることができたらもっとも便利である。ひとつでもふたつでも世界標準を発信できるようになるための環境についても整備の必要性大である。そのような環境作りの一部なりとも、まがりなりにも情報に携わっている人間のひとりとして寄与できればと思う次第である。

<参考文献>

AACR2 '88 Rev. ed.

ISBD (ER)

OCLC Cataloging Internet Resources

永田治樹「学術情報と図書館」

日本目録規則 1987 年版改訂版第 9 章コンピュータファイルの改訂について（案）図書館雑誌 1998.5

杉本重雄「デジタル図書館に関する最近の話題から」DL Journal No. 10-9

Guidelines for the use of Field 856. Rev. Aug. 1997

Order, Norman "Cataloging the Net : can we do it?" Library Journal Oct. 1, 1998

Kapoun, Jim "Teaching undergrads WEB evaluation" C&RL News, July/Aug. 1998

Stern, Barbara "Internationalizing the Rules in AACR2" Cataloging & Classification Quarterly, v. 21-3/4

(参考1)

ISBD(ER)Example 網掛け部分が ISBD(ER)によって新規に採用された

American example (Local access interactive multimedia electronic resource)

Living books framework. Volume 1 [Electronic resource] / Living Books, a Random House/Broderbund Company. -- Macintosh/Windows. -- Electronic interactive multimedia. -- Novato (CA) : Broderbund, cop. 1994.

4 electronic optical discs (CD-ROM) : sd., col. ; 12 cm.

2 sound cassettes (16, 23 min.)

System requirements for Macintosh: 4MB RAM; System 6.0.7 or higher; 256 col. monitor; CD-ROM drive.

System requirements for Windows: IBM/Tandy or 100 % compatible 386SX or higher with 4MB RAM; Windows 3.1; MS-DOS 3.3 or higher; Super VGA (640 x 486, 256 colours); Sound Blaster or Pro and 100%compatible soundcards; mouse; CD-ROM drive.

Title from container.

Copyright date from manual.

Additional accompanying material includes 8 paperback books, 1 manual, 4 user's guides, and 1 troubleshooting guide.

Summary: Designed to help teachers integrate Living books into the language arts curriculum.

Contents: Just grandma and me / Mercer Mayer. -- The tortoise and the hare / Aesop. -- Arthur's teacher trouble / Mar Brown. -- The new kid on the block / Jack Prelutsky.

American example (Remote access electronic resource)

Callaloo [Electronic resource]. -- Electronic journal. -- Baltimore (MD) : Johns Hopkins University Press, cop. 1995-Quarterly.

18.1 (winter 1995)-

Mode of access: Internet via World Wide Web.

URL: <http://muse.jhu.edu/journals/callaloo/>.

Title from title screen.

Also available in a print ed.

Canadian example (Local access electronic resource)

Lost treasures of the world [Electronic resource]. -- Calgary : Follgard CD-Vision, cop. 1994.

1 electronic optical disc (CD-ROM) ; 12 cm. + 1 guide. -- (Adventure guest series)

System requirements: Macintosh; 68030 processor; 6MB RAM; System 7.01 or higher; 2MB hard disk; 8 bit col. Monitor; CD-ROM drive.

Title from disc label.

Host and guide: Stan Grist.

On box: Interactive CD-ROM, Macintosh/Windows.

Five criteria for evaluating Web pages	
Evaluation of Web documents	How to interpret the basics
1. Accuracy of Web Documents <ul style="list-style-type: none">• Who wrote the page and can you contact him or her?• What is the purpose of the document and why was it produced?• Is this person qualified to write this document?	Accuracy <ul style="list-style-type: none">• Make sure author provides e-mail or a contact address/phone number.• Know the distinction between author and Webmaster.
2. Authority of Web Documents <ul style="list-style-type: none">• Who published the document and is it separate from the "Webmaster?"• Check the domain of the document, what institution publishes this document?• Does the publisher list his or her qualifications?	Authority <ul style="list-style-type: none">• What credentials are listed for the author(s)?• Where is the document published? Check URL domain.
3. Objectivity of Web Documents <ul style="list-style-type: none">• What goals/objectives does this page meet?• How detailed is the information?• What opinions (if any) are expressed by the author?	Objectivity <ul style="list-style-type: none">• Determine if page is a mask for advertising; if so information might be biased.• View any Web page as you would an infommercial on television. Ask yourself why was this written and for whom?
4. Currency of Web Documents <ul style="list-style-type: none">• When was it produced?• When was it updated?• How up-to-date are the links (if any)?	Currency <ul style="list-style-type: none">• How many dead links are on the page?• Are the links current or updated regularly?• Is the information on the page outdated?
5. Coverage of the Web Documents <ul style="list-style-type: none">• Are the links (if any) evaluated and do they complement the documents' theme?• Is it all images or a balance of text and images?• Is the information presented cited correctly?	Coverage <ul style="list-style-type: none">• If page requires special software to view the information, how much are you missing if you don't have the software?• Is it free, or is there a fee, to obtain the information?• Is there an option for text only, or frames, or a suggested browser for better viewing?
Putting it all together <ul style="list-style-type: none">• Accuracy. If your page lists the author and institution that published the page and provides a way of contacting him/her, and . . .• Authority. If your page lists the author credentials and its domain is preferred (.edu, .gov, .org, or .net), and . . .• Objectivity. If your page provides accurate information with limited advertising and it is objective in presenting the information, and . . .• Currency. If your page is current and updated regularly (as stated on the page) and the links (if any) are also up-to-date, and . . .• Coverage. If you can view the information properly—not limited to fees, browser technology, or software requirement, then . . . <p>You may have a higher quality Web page that could be of value to your research! ■</p>	